

# 衆議院原子力問題調査特別委員会ニュース

【第 211 回国会】令和 5 年 6 月 8 日（木）、第 4 回の委員会が開かれました。

## 1 原子力問題に関する件

- ・ 睦元厚生労働大臣政務官、山中原子力規制委員会委員長及び政府参考人並びに参考人に対し質疑を行いました。

（参考人）原子力委員会委員長 上坂充君

（質疑者）石川昭政君（自民）、宮澤博行君（自民）、平林晃君（公明）、浅野哲君（国民）、阿部知子君（立憲）、野間健君（立憲）、空本誠喜君（維新）、笠井亮君（共産）

（質疑者及び主な質疑事項）

### 石川昭政君（自民）

- （1） ALPS 処理水の海洋放出
  - ア G7 広島サミットにおける各国への理解の働きかけ、IAEA のレビューの状況及び韓国視察団による視察結果
  - イ 放出時期決定に当たり地元とコミュニケーションを取る必要性及び風評被害が起きた場合の水産業、水産加工業への対策
- （2） 原子力規制委員会の審査会合の事前確認の運用を柔軟に行うことについての山中原子力規制委員会委員長（以下、「山中委員長」という。）の見解
- （3） 次世代のがん治療法である BNCT の開発に対する国の支援及び今後の見通し

### 宮澤博行君（自民）

- （1） 令和 4 年 9 月 7 日の原子力規制委員会です承された原子力規制庁の「電力会社経営層との意見交換を踏まえた新規制基準適合性に係る審査の進め方」の進捗状況
  - ア 論点の明確化
    - a 規制庁と事業者の共通理解及び必要に応じた文書化、基準や審査ガイドの明確化並びに論点や確認事項の事前通知の 3 点に対するそれぞれの進捗状況
    - b 残された論点の確認後に新たな論点を追加するなどして審査の手戻りがないようにする必要性
  - イ 審査会合の進め方の事業者との共有
    - a 原子力規制庁の整理状況
    - b 同じ専門分野の担当委員を予め複数選任することにより審査を改善することについての山中委員長の見解
    - c 審査会合日程は委員の都合に左右されることなく、優先的に設定される必要性
  - ウ 審査資料上議論のある論点についての現地調査の実績及び今後の見通し
- （2） 新規制基準の適合が認められた後の住民説明会を国の責任で取り組むことについての資源エネルギー庁の見解
- （3） 原発災害時の広域避難における受入れ側の体制整備に向けた財政支援の状況

### 平林晃君（公明）

- （1） GX 脱炭素電源法施行により原子炉等規制法に設けられる原子力発電所の運転開始後 30 年目以降 10 年ごとの審査、40 年目の特別点検及び 60 年目以降の追加点検の内容及び意義に対する山中委員長の認識
- （2） 東京電力福島第一原子力発電所の廃炉

- ア 2号機の燃料デブリの試験的取出しに係るこれまでの経緯、現状認識及び東京電力への指導方針
- イ 1号機のベデスタルの損傷状況を踏まえた、放射性物質放出リスクに対する山中委員長の評価
- (3) 公益財団法人放射線影響研究所広島研究所移転後の国有地の活用に対する財務省の見解
- (4) ALPS処理水の海洋放出により風評影響が生じた場合の対策に関する今後の検討事項

#### 浅野哲君（国民）

- (1) 敦賀発電所敷地内破砕帯の調査に関する有識者会合
  - ア 有識者会合を設けた経緯
  - イ 有識者会合が活断層であると結論づけたD-1破砕帯関係
    - a 原子力規制委員会が同破砕帯について活断層相当との認識を示すに当たり主体的に実施した評価結果の有無
    - b 当時の原子力規制委員会が示した認識は主体的な評価と言えないとの意見に対する見解
    - c 有識者会合の役割に関する山中委員長の見解
- (2) 原子力規制委員会の審査に際し、事前に原子力規制庁と事業者の間で基本的なルールを確認する必要性

#### 阿部知子君（立憲）

- (1) 東京電力福島第一原子力発電所において事故収束に当たる作業員の被曝
  - ア 放射線被曝によるがんの労災認定件数が多いとの意見に対する厚生労働省の認識
  - イ 事故後の作業における被曝線量が100mSv未満である事案の件数
  - ウ 被曝線量が年間100mSvを超える緊急作業従事者の令和3年度がん検診の結果
  - エ 登録された緊急作業従事者は放射線業務に伴うがんのリスクもあることから放射線健康管理手帳を交付してがん検診を受診できるようにすべきとの意見に対する厚生労働省の見解
  - オ 同作業員の作業環境に係る今後の検討すべき課題についての山中委員長の所見
  - カ 放射線被曝によるがんなどの疾病の補償制度に係る労災保険のリーフレットの記載を線量が低くても被曝リスクがあると分かるよう見直す必要性
  - キ 同リーフレットを同作業員全員に配付する必要性
- (2) ALPS処理水の海洋放出
  - ア 太平洋島嶼フォーラム事務局等との意見交換を踏まえた外務省の課題認識
  - イ 科学的知見に基づき規制の在り方を含めて諸外国と丁寧に対話を重ねる必要性についての山中委員長の認識

#### 野間健君（立憲）

- (1) 九州電力川内原子力発電所に係る避難計画
  - ア 昨年8月に地元でプレミアム商品券の販売が行われた際に購入希望者が殺到して市内で大渋滞がほぼ1日中続いた事態に関する内閣府の把握、検証の有無
  - イ 有事の際に避難住民の輸送に当たるバスの運転従事者の安全性確保に関する対策の状況
- (2) 廃炉関係
  - ア 廃炉が決定した国内原発の廃炉工程の進捗状況
  - イ 廃炉の過程で発生する除染水や低レベル放射性廃棄物の処理方法並びに電力事業者における廃炉の会計上の位置付け
  - ウ 廃炉により事故等の危険性が低下するという、政府としての認識の有無
- (3) 高経年化した原子炉の運転延長問題

- ア あたかも高経年化した原子炉を若返らせて運転期間を延長するような仕組みに対する山中委員長の見解
- イ 個別の原子炉ごとに規制基準が必要との考えに対する山中委員長の見解
- ウ これまでの審議の過程で安全性に係る科学的根拠が十分に示されていないとの懸念に対する政府の見解

#### 空本誠喜君（維新）

- (1) 福島第二原発が過酷事故に至らなかったことに関し、初期対応についての人材面及び施設面での第一原発との違い
- (2) 原発再稼働に向けた人員確保
  - ア 電力会社、メーカー及び協力会社の人員確保状況及びこれに対する資源エネルギー庁の受止め
  - イ 40代後半の実務経験者や60代の人の現場での登用に関する資源エネルギー庁の見解
- (3) 原発の廃炉及び新增設・リプレース
  - ア 原発廃炉の進め方及びその加速化についての資源エネルギー庁及び原子力規制庁の見解
  - イ 新增設及びリプレースの立地場所並びに新設するプラントの規模感
  - ウ 運転期間80年への延長を視野に入れた法改正の必要性についての上坂原子力委員会委員長の見解
- (4) 今夏の各地域の電力需給の見通し、電気料金高騰対策及び九州電力・関西電力が値上げをしない理由

#### 笠井亮君（共産）

##### 原子力発電所における火災防護対象ケーブルの系統分離

- ア 原子力規制庁が行った火災防護対象ケーブルの系統分離に係る原子力規制検査の現状報告の概要
- イ 四国電力伊方発電所3号機の状況確認関係
  - a 系統分離が必要な火災防護対象ケーブルの長さ及び原子力規制庁による同ケーブル総延長にわたる直接確認の有無
  - b 原子力規制庁の現場確認における対象の選定及び確認方法
  - c 火災防護に係る審査基準の内容
- ウ すべての火災防護対象ケーブルを原子力規制庁が直接確認する必要性
- エ 原子力規制庁の方針である「実用発電用原子炉施設に係る工事計画認可後の使用前検査の進め方について」において使用前検査合格後に技術基準に違反することが判明した場合の対応
- オ 火災防護対象ケーブルの不備が確認された加圧水型軽水炉（PWR）を持つ原子力発電所について運転停止を命じる必要性
- カ 東日本の沸騰水型軽水炉（BWR）を持つ原子力発電所における火災防護対象ケーブルの検査状況